

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2024.7.22-28

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

14:17 ユダの王ヨアシュの子アマツヤは、イスラエルの王エホアハズの子ヨアシュの死後、なお十五年生きた。

14:18 アマツヤについてのその他の事柄、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。

14:19 エルサレムで人々が彼に対して謀反を企てた。彼はラクシュに逃げたが、人々はラクシュに追っ手を送り、そこで彼を殺した。

14:20 彼らは彼を馬に乗せて運んだ。彼はエルサレムで先祖とともに、ダビデの町に葬られた。

14:21 ユダの民はみな、当時十六歳であったアザルヤを立てて、その父アマツヤの代わりに王とした。

14:22 彼は、アマツヤが先祖とともに眠った後、エイラトを築き直し、それをユダに復帰させた。

14:23 ユダの王ヨアシュの子アマツヤの第十五年に、イスラエルの王ヨアシュの子ヤロブアムが王となり、サマリアで四十一年間、王であった。

14:24 彼は【主】の目に悪であることを行い、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムのすべての罪から離れなかった。

14:25 彼は、レボ・ハマテからアラバの海までイスラエルの領土を回復した。それは、イスラエルの神、【主】が、そのしもべ、ガテ・ヘフェル出身の預言者、アマタイの子ヨナを通して語られたことばのとおりであった。

14:26 イスラエルの苦しみが非常に激しいのを、【主】がご覧になったからである。そこには、奴隷も自由な者もいなくなり、イスラ



エルを助ける者もいなかった。

14:27 【主】はイスラエルの名を天の下から消し去ろうとは言うておられなかった。それで、ヨアシュの子ヤロブアムによって彼らを救われたのである。

14:28 ヤロブアムについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、彼が戦いであげた功績、すなわち、かつてユダのものであったダマスコとハマテをイスラエルに取り戻したこと、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。

14:29 ヤロブアムは、彼の先祖たち、イスラエルの王たちとともに眠り、その子ゼカリヤが代わって王となった。

心が高ぶりイスラエルに戦いをしかけて、結局負けたアマツヤに対して、民はこれを退けました。神に従わない指導者は、自分の力でできると勘違いしているのですが、失敗することになります。

ヤロブアムは「主の目の前に悪であることを」行った王ですが、再建や回復を遂げた王でもありました。ここで表されているのは、ただ主のあわれみです。「イスラエルの名を天の下から消し去ろうとは言うておられなかった」主のみこころです。

私たちは主のみわざがあったときに、自分または自分たちの信仰が良かったからだ…と思ひ込んでしまうことがあります。必ずしもそうではないことも覚えて、謙遜でありましょう。または改めることは、改めましょう。

また主のあわれみに感謝しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



23日 火曜

列王Ⅱ



15:1 イスラエルの王ヤロブアムの第二十七年に、ユダの王アマツヤの子アザルヤが王となった。

15:2 彼は十六歳で王となり、エルサレムで五十二年間、王であった。彼の母の名はエコルヤといい、エルサレム出身であった。

15:3 彼は、すべて父アマツヤが行ったとおりに、【主】の目にかなうことを行った。

15:4 ただし、高き所は取り除かれなかった。民はなおも、その高き所でいけにえを献げたり、犠牲を供えたりしていた。

15:5 【主】が王を打たれたので、彼は死ぬ日までツアラアトに冒された者となり、隔離された家に住んだ。王の子ヨタムが宮殿を管理し、民衆をさばいた。

15:6 アザルヤについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。

15:7 アザルヤは彼の先祖とともに眠りについた。人々は彼をダビデの町に先祖とともに葬った。彼の子ヨタムが代わって王となった。

15:8 ユダの王アザルヤの第三十八年に、ヤロブアムの子ゼカリヤがサマリアでイスラエルの王となり、六か月の間、王であった。

15:9 彼は先祖たちがしたように、【主】の目に悪であることを行い、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムの罪から離れなかった。

15:10 ヤベシュの子シャルムは、彼に対して謀反を企て、民の前で彼を打ち殺し、彼に代わって王となった。

15:11 ゼカリヤについてのその他の事柄は、『イスラエルの王の歴代誌』にまさしく記さ

れている。

15:12 【主】がかつてエフーに告げられたことばは、「あなたの子孫は四代までイスラエルの王座に着く」ということであったが、はたして、そのとおりになった。

歴代誌を見ると、アザルヤは傲慢のために主に打たれたのだとわかります。主の目に良いことを行っても、高いところは取り除かなかったというように本当の従順がないと、人は傲慢になって主に打たれるということがあるのです。自分は従って良いことをしているのに何故…という不満よりも、自分は何か従っていない部分はないだろうか…という謙遜な姿勢が大切です。

イスラエルの王たちは、誰もが自己実現のために争って王位についたということが分ります。その不信仰の連続には、このような不信仰の原点があったのです。私たちも事を始める時の動機が大切です。時には自分の行いや今あることの原点をさかのぼって、省みる必要があります。もしも主の目に反することがあったなら、悔い改めて赦しときよめが必要です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



24日 水曜

列王Ⅱ

15:13 ヤベシュの子シャルムは、ユダの王ウジヤの第三十九年に王となり、サマリアで一か月間、王であった。

15:14 ガディの子メナヘムは、ティルツァから上ってサマリアに至り、ヤベシュの子シャルムをサマリアで打ち、彼を殺して、彼に代わって王となった。

15:15 シャルムについてのその他の事柄、彼が企てた謀反は、『イスラエルの王の歴代誌』にまさしく記されている。

15:16 そのとき、メナヘムはティルツァから出て、ティフサフとその住民、その領地を討った。彼らが城門を開かなかったため、その中のすべての妊婦たちを打ち殺して切り裂いた。

15:17 ユダの王アザルヤの第三十九年に、ガディの子メナヘムがイスラエルの王となり、サマリアで十年間、王であった。

15:18 彼は【主】の目に悪であることを行い、一生の間、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムの罪から離れなかった。

15:19 アッシリアの王プルがこの国に来たとき、メナヘムは銀千タラントをプルに与えた。プルの援助によって、王国を強くするためであった。

15:20 メナヘムは、イスラエルのすべての有力者にそれぞれ銀五十シケルを供出させ、これをアッシリアの王に与えたので、アッシリアの王は引き返し、この国にとどまらなかった。

15:21 メナヘムについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。



15:22 メナヘムは先祖とともに眠りにつき、その子ペカフヤが代わって王となった。

15:23 ユダの王アザルヤの第五十年に、メナヘムの子ペカフヤがサマリアでイスラエルの王となり、二年間、王であった。

15:24 彼は【主】の目に悪であることを行い、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムの罪から離れなかった。

15:25 彼の侍従、レマルヤの子ペカは、彼に対して謀反を企て、サマリアの王宮の高殿で、ペカフヤとアルゴブとアルエを打ち殺した。ペカには五十人のギルアデ人が加わっていた。ペカはペカフヤを殺し、彼に代わって王となった。

15:26 ペカフヤについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのことは、『イスラエルの王の歴代誌』にまさしく記されている。

シャルムはゼカリヤ王を殺して王位を得ましたが、彼はメナヘムによって殺されて、王位はメナヘムのものになりました。そのメナヘムは次の王である息子ペカフヤが殺されて、王位を奪われました。力が力を倒して、自己目的のために世が動かされるのです。

神様に従わずに自分勝手な自己実現の果てがよくわかります。私たちは全く違う生き方をするものです。主に従い、自己目的から離れ、平安と世よに渡る成功をいただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 25日 木曜

列王Ⅱ

15:27 ユダの王アザルヤの第五十二年に、レマルヤの子ペカがサマリアでイスラエルの王となり、二十年間、王であった。

15:28 彼は【主】の目に悪であることを行い、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムの罪から離れなかった。

15:29 イスラエルの王ペカの時代に、アッシリアの王ティグラト・ピレセルが来て、イヨン、アベル・ベテ・マアカ、ヤノアハ、ケデシュ、ハツオル、ギルアデ、ガリラヤ、ナフタリの全土を占領し、その住民をアッシリアへ捕らえ移した。

15:30 そのとき、エラの子ホセアはレマルヤの子ペカに対して謀反を企て、彼を打ち殺して、ウジヤの子ヨタムの第二十年に、彼に代わって王となった。

15:31 ペカについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのことは、『イスラエルの王の歴代誌』にまさしく記されている。

15:32 イスラエルの王レマルヤの子ペカの第二年に、ユダの王ウジヤの子ヨタムが王となった。

15:33 彼は二十五歳で王となり、エルサレムで十六年間、王であった。彼の母の名はエルシャといい、ツアドクの娘であった。

15:34 彼は、すべて父ウジヤが行ったとおりに、【主】の目にかなうことを行った。

15:35 ただし、高き所は取り除かれなかった。民はなおも、高き所でいけにえを献げたり、犠牲を供えたりしていた。彼は【主】の宮の上の門を建てた。

15:36 ヨタムが行ったその他の事柄、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。



15:37 そのころ、【主】はアラムの王レツインとレマルヤの子ペカを、ユダに対して送り始められた。

15:38 ヨタムは先祖とともに眠りにつき、先祖とともにその父ダビデの町に葬られた。彼の子アハズが代わって王となった。

イスラエルではメナヘム、ペカフヤ、ペカ、ホセアが順に王となり、ユダではヨタム、アハズが王となりました。多くは歴史から学ばず、何よりも信仰の目で見えることをしないで、同じ事を繰り返しました。

同盟など人間の視点で見るよりも、神の視点で見ることです。私たちは自分の人間関係をどのようにして生きているのでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



16:1 レマルヤの子ペカの第十七年に、ユダの王ヨタムの子アハズが王となった。

16:2 アハズは二十歳で王となり、エルサレムで十六年間、王であった。彼はその父祖ダビデとは違って、彼の神、【主】の目にかなうことを行わず、

16:3 イスラエルの王たちの道に歩み、【主】がイスラエルの子らの前から追い払われた異邦の民の、忌み嫌うべき慣わしをまねて、自分の子どもに火の中を通らせることまでした。

16:4 彼は高き所、丘の上、青々と茂るあらゆる木の下でいけにえを献げ、犠牲を供えた。

16:5 そのころ、アラムの王レツィンと、イスラエルの王レマルヤの子ペカが、戦いのためにエルサレムに上って来て、アハズを包囲したが、攻め切れなかった。

16:6 このとき、アラムの王レツィンはエイラトをアラムに復帰させ、ユダの人々をエイラトから追い払った。ところが、エドム人がエイラトに来て、そこに住みついた。今日もそのままである。

16:7 アハズは使者たちをアッシリアの王ティグラト・ピレセルに遣わして言った。「私はあなたのしもべであり、あなたの子です。どうか上って来て、私を攻めているアラムの王とイスラエルの王の手から救ってください。」

16:8 アハズが【主】の宮と王宮の宝物倉にある銀と金を取り出して、それを贈り物としてアッシリアの王に送ったので、

16:9 アッシリアの王は彼の願いを聞き入れた。アッシリアの王はダマスコに攻め上り、これを取り、その住民をキルへ捕らえ移した。彼

はレツィンを殺した。

アハズはユダの中では最悪に属する王で、「異邦の民の、忌みきらうべきならわしをまねて、自分の子どもに火の中を通らせることまでした」とあります。これは当時の異教の風習のひとつで、人をいけにえとしたのです。

このようなことを主が許すはずはなく、アラムやイスラエル（北王国）を用いて、ユダに試練を与えました。しかし、アハズ王は自分の行いを改めるところか、神よりも強国アッシリアに依り頼みました。

アッシリアは後にイスラエル王国を滅ぼす危険な大国ですが、このようなアッシリアに対してアハズ王は恭順の姿勢を最大限にしめし、頼りしました。このように自分の身に起こることに対して、神の視点がないと、人は全く逆の方に進んでしまいます。

自分の身に起こることや状況などを、神の視点で見るとにしましょう。すなわち信仰の目で見るとにしましょう。そうでないとアハズのように、逆のことをしてしまい、かえって苦難を招くことになるからです。それはみことばから気づかせていただくことが一番です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



27日 土曜

列王Ⅱ

16:10 アハズ王は、アッシリアの王ティグラト・ピレセルに会うためダマスコに行ったとき、ダマスコにある祭壇を見た。アハズ王は、祭壇の図面とその模型を、詳細な作り方と一緒に祭司ウリヤに送った。

16:11 祭司ウリヤは、アハズ王がダマスコから送ったものとそっくりの祭壇を築いた。祭司ウリヤは、アハズ王がダマスコから帰って来るまでに、そのようにした。

16:12 王はダマスコから帰って来た。その祭壇を見て、王は祭壇に近づき、その上に上った。

16:13 彼は全焼のささげ物と、穀物のささげ物を焼いて煙にし、注ぎのささげ物を注ぎ、自分のための交わりのいけにえの血をこの祭壇に振りかけた。

16:14 【主】の前にあった青銅の祭壇は、神殿の前から、すなわち、この祭壇と【主】の神殿の間から動かし、この祭壇の北側に置いた。

16:15 それから、アハズ王は祭司ウリヤに次のように命じた。「朝の全焼のささげ物と夕方穀物のささげ物、また、王の全焼のささげ物と穀物のささげ物、この国の民全体の全焼のささげ物と穀物のささげ物、ならびにこれらに添える注ぎのささげ物を、この大いなる祭壇の上で焼いて煙にせよ。また全焼のささげ物の血といけにえの血は、すべてこの祭壇の上に振りかけなければならない。青銅の祭壇は、私が伺いを立てるためのものとする。」

16:16 祭司ウリヤは、すべてアハズ王が命じたとおりに行った。



16:17 アハズ王は、車輪付きの台の鏡板を切り離し、その台の上から洗盤を外し、またその下にある青銅の牛の上から「海」も降ろして、それを敷き石の上に置いた。

16:18 彼は、宮の中に造られていた安息日用の覆いのある通路も、外側の王の出入り口も、アッシリアの王のために【主】の宮から取り除いた。

16:19 アハズが行ったその他の事柄、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。

16:20 アハズは先祖とともに眠りにつき、先祖とともにダビデの町に葬られた。彼の子ヒゼキヤが代わって王となった。

後にイスラエル王国はアッシリアに、ユダ王国はバビロニアに滅ぼされるのですが、このようなアッシリアに対してアハズ王は恭順の姿勢を最大限にしめします。すなわちアッシリアに「そっくりの祭壇」を作り、王が「その上でいけにえをささげ」、「主の前にあった」祭壇のものを「持って来て」主をないがしろにしたのです。

それはすべて「アッシリアの王のために主の宮から取り除いた」のであって、アッシリアの軍事力を恐れて、アッシリアを頼りとする政治的な目論見でもありました。

このように人は困難にあるときに、向かう方向が二つに分かれます。一つは主に依り頼んでますすみこころを行う人、そして一つは人や対処法に依り頼んでみこころから外れて行く人です。

自分自身はどうであるのか、また今何かで信仰の決断を迫られることはないか、よく考えてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





17:1 ユダの王アハズの第十二年に、エラの子ホセアがサマリアでイスラエルの王となり、九年間、王であった。

17:2 彼は【主】の目に悪であることを行つたが、彼以前のイスラエルの王たちのようではなかった。

17:3 アッシリアの王シャルマネセルが攻め上つて来た。そのとき、ホセアは彼に服従して、貢ぎ物を納めた。

17:4 しかし、アッシリアの王はホセアの謀反に気がついた。ホセアがエジプトの王ソに使者たちを遣わし、アッシリアの王には年々の貢ぎ物を納めなかったからである。そこで、アッシリアの王は彼を捕らえて牢獄につないだ。

17:5 アッシリアの王はこの国全土に攻め上り、サマリアに攻め上つて、三年間これを包囲した。

17:6 ホセアの第九年に、アッシリアの王はサマリアを取り、イスラエル人をアッシリアに捕らえ移し、彼らをハラフと、ゴザンの川ハボルのほとり、またメディアの町々に住まわせた。

17:7 こうなったのは、イスラエルの子らが、自分たちをエジプトの地から連れ上り、エジプトの王ファラオの支配下から解放した自分たちの神、【主】に対して罪を犯し、ほかの神々を恐れ、

17:8 【主】がイスラエルの子らの前から追い払われた異邦の民の風習、イスラエルの王たちが取り入れた風習にしたがって歩んだからである。

17:9 イスラエルの子らは、自分たちの神、

【主】に対して、正しくないことをひそかに行い、見張りのやぐらから城壁のある町に至るまで、すべての町に高き所を築き、
17:10 すべての小高い丘の上や、青々と茂るどの木の下にも石の柱やアシェラ像を立て、
17:11 【主】が彼らの前から移された異邦の民のように、すべての高き所で犠牲を供え、悪事を行つて【主】の怒りを引き起こした。
17:12 【主】が彼らに「このようなことをしてはならない」と命じておられたのに、彼らは偶像に仕えたのである。

ホセアは「以前のイスラエルの王たちのようではなかった」と記してありますが、それは信仰的に違っていたというではありませんでした。むしろ信仰的には「主の目の前に悪を行つた」とあり、やはり偶像礼拝の罪は変わらなかったのです。何が違っていたかという、他の王たちは強国に恭順しその偶像を受け入れるほどであったが、彼はアッシリアには従わなかったということです。しかしそれは信仰から出たことではありませんでした。主に依り頼まずにエジプトを頼りとしたのでした。

信仰のない人はこのように、閉ざされても困難に会っても、その選択は不信仰へ不信仰へと向いてしまいます。信仰の人は、失敗してもすぐに主に立ち返り、悔い改めて神様との関係を回復して、善い歩みを始めます。

結局このようにアッシリアに囲まれてしまったのは、イスラエル全体の罪なのだ、聖書は記します。1人の王の影響力はありますが、民の判断はその不信仰な王に従うということで、自分たちも同じようにしたのです。

私たちは環境や状況のせいにならないで、あくまでも信仰の決断は自分自身にかかっているのだということを認めましょう。そして困難や問題の中で、また神ならぬものに頼ることをせずに、神様に従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

